

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年 5月11日
(78号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第82講

「時を守り・場を清め・礼を正す」

松岡 浩先生



■時を守る

教育哲学者の森信三先生は、学校の教育には「時を守り・場を清め・礼を正す」ことが大切であると唱えられました。

これは企業の再建にも同様だと思い、私自身、実践を続けています。

「時を守る」は時間を守ること。たとえば、集合時間には、必ずその時間までに行くことです。他者中心を心掛ける人は、集合時間前に行き、人の仕事を手伝います。自己中心の人は、集合時間に遅れ、迷惑をかけます。前者は人としてお手本になります。後者は周りから信頼を失います。「時を守る」は単に時間を守るだけではなく、「約束を守る」ととらえ、そのことを意識して生活しています。

企業人の大切なことは、命の次に「信用」です。特に「先約優先」、先にした約束を優先し、約束を破ったことばありません。約束を破ることは、商人失格、経営者失格、社会人としての失格につながります。お金は失つても取り戻せるが、信用は失つたら、取り戻すことはできないのです。人との待ち合わせでは、できるだけ先に行くことを意識しています。鍵山秀三郎さんとする会社で待ち合わせしたときのこと、約束の三十分以上前に向いたのですが、着いたときにはすでに鍵山さんはその会社の向かいの公園のごみ拾いをされていた。このような方に教えを受けて、私も少しずつ意識ができるようになりました。

■場を清める・礼を正す

「場を清める」とは、学校や会社の場を徹底的に磨き上げることです。どこもごみひとつなく、トイレ

もピカピカ、敷地内にも雑草など無い状態でいつも清々しい環境を作ることです。トイレ掃除で白い雑巾を使用し、どこを拭いても白いままであること、これはタニサケの自慢です。社内には積極的に花を飾り、働く仲間の心を癒します。雑草はボールペン一本分の長さになると草取りをします。場作りの名言に「掃除の広さと人物の広さは比例する」とありますが、時間を掛けて自分を上げるということでしよう。私はできるだけ広く掃除をし、大人物を目指したいと思っています。私の会社では、トイレ掃除は自由に、男性の時間の都合のつく人にやってもらっています。掃除をする人は成長します。やらせる掃除ではなく「やる掃除」に光がある。義務感ではなく、楽しんでやるのが重要です。

「礼を正す」、挨拶を行なうこと。なにより真つ先に挨拶をする。そして特に上に立つ者、上司が部下に「さん付け」で先に挨拶をする、ということをしていきます。次に何か頼まれたり、名前を呼ばれたときには、「はい」と大きな返事を習慣づけるのは、素直な人間になるための秘訣です。

学校の再建、企業の再建、日本の復活は、一人一人の年長者が、時を守り場を清め礼を正すことを心掛けることで可能です。実に平凡なことですが、やり続けることが難しいのです。お互いに未来を背負う若者たちのお手本を目指して頑張りましょう。日本を良くしよう、と言葉だけではなく、具体的に何をするのか。良い会社の条件は、会社が美しいことではないか、と思います。そして、上



に立つ者の姿勢が大事です。上司が先に挨拶すること、先に嫌なことをすること、率先垂範こそが良い企業への道ではないかと思っています。

■一流を意識した毎日の実践

わが社の社名は三つのうちの一つは「忠恕」、真心や思いやりのこと。そして「社員中心主義」。これは行なうことが、社員さんが喜ぶのか悲しむのかという判断です。「先も立ち私も立つ」というのは、石田梅岩先生の言葉です。社訓として掲げている社員の心構えは「人に喜ばれることをする」「一日一日を前向きに生きる」「即行」(ただちに行動)「明るく楽しくおもしろく」です。おかげさまで退職する人はほとんどありません。縁あって一緒になった皆様と共に成長しようという思いでいます。

常々「改善提案」を募集しています。改善とは社員の叫び、これを大きな耳で聞かねばならない。改善提案は社員の人間成長につながります。また、提案を認めることで、社員に存在感を持たせ、自信になります。その自信はいきいき働く笑顔につながります。改善提案数は上司の人格に比例します。上司が尊敬されていると提案がたくさん出てくるのです。会社経営はファン(信者)作りです。そのためには会社を磨き上げること。それも業者に頼むのではなく自分たちの手で行なう。掃除はもの言わぬ営業マンです。人間の営みの全ては幸せのためにあります。会社は利他、他人のため、地域のため、世の中のために尽くすことが大切です。社員の幸せを通じて社会に貢献するということが、企業のあるべき姿だと考えています。利益を上げるのが目的ではなく、人間作りこそが大切なことだと思います。

いま多くの会社は自己中心ですが、利他中心となってきたとき、日本も良くなってくるのではないのでしょうか。人生で努力をしても成功は約束されていない。しかし成長は約束されています。一流を意識した心がけを重ねて、お客様から「また会いたい(利用したい)」と思っていただける実践をやり続けること。一流を意識した毎日の薄紙のような実践が三年後には大きな変化となっているのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 松岡 浩先生先生

「時を守り・場を清め・礼を正す」

【Aグループ】

- ① 一流を意識する。
- ② ありがとうカードを仕事に生かす。
- ③ 掃除の広さと、人物の広さは、比例する。

【Bグループ】

- ① 一流を意識する。
- ② 運の良い生き方。
- ③ 感化力は、自己犠牲に比例する。

【Cグループ】

- ① 即今着手
- ② 改善提案
- ③ お客様を喜ばせ続ける。

【Dグループ】

- ① 人生で努力をしても成功は約束されていない。
- ② 感化力は、自己犠牲に比例する。
- ③ ハガキを書く時、もっと相手を褒める。

【Eグループ】

- ① 利己中心から他社中心へ、人を喜ばせる。
- ② よい会社は、会社が美しい。
- ③ 会社経営は、人間づくりから。



《読書会》Aグループ

・指導 近藤宏枝世話人

・テキスト 森信三『一語一会』 4月

・進行 北嶋紀子塾生

四月一日

「これだけは絶対にしない」ということが、自己を確立する上での最低基盤線といってよいでしょう。ですから、人間としてこの最低基盤線の確保、これが大事です。

四月五日

ハガキを最上の武器として活用しうる人間に——
かくしてハガキ活用の達人たるべし

四月六日

縁なき人の書物を数十ページ読むのが大事か、それとも手紙の返事を書く方が大事か——このいずれをとるかによって、人間が分かれるといえよう。

四月十七日

一心だに決定すれば、人は如何なる環境に置かれるとも、何時かは道の開けてくるものなり。唯そこに到るに時の遅速あるのみ。



《読書会》(Bグループ)

・指導 中川千都子副代表

・テキスト 『ありがとうございます』

・進行 大西由香塾生

□ 人生の真実の目的とは、「悟りを開くことです。即ち本心を開発して、この世に感謝の花を、無限に無限に咲かせることなのです。」

□ 氣力を湧き出させ、心を積極的にし、行動を前向きにするための秘訣は、プラスの言葉だけを使うことです。たとえ今現在の自分の状態が、過去に使ってきたマイナスの言葉の影響で、無氣力で、消極的で、後ろ向きであっても、プラスの言葉を駆使すれば、前向きになれるのです。

□ 感謝と喜びと感謝の心で、食物を最高に生かし輝かせてこそ、食物の天命が全うされるのです。食物の大犠牲精神(愛)に対して、真心込めて深く深く感謝しなければならぬのです。

本心：神の御霊としての心

神さま：宇宙の摂理

お祈り：ありがとうございます
真祈り：自分を横に置いて祈る

悟りを開くとは：披が一体

不離が一体

神が一体



《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録



今は亡き西片擔雪老師のご提唱の記録で、臨済宗の『碧巖録』三巻は、道元の『正法眼蔵』と共に難解の古典とも言えるものです。

その第一巻の解説をひもとく中で、現代に迫る例話や実話がところどころに講述されているのです。その中心ひかれたのは、かつての高校野球部で全国制覇をなした徳島県池田高校の蔦監督の言葉です。

「三無」の精神というもので、

(1)人生に近道なし

(2)人生に失望なし

(3)人生に待ったなし というものです。

こうした信念に立つて選手諸君を、全人生練磨の立場から、温かく厳しく鍛えられたものと思い、改めて感動いたしました。

その中でも「人生に近道なし」の一語にもっとも心ひきつけられました。

というのは、かつて天理教教祖中山みきさまの「おふでさき」なるお歌に若き日より親しんできたわたくしにとって、

「ちかみちも よくもころまん

なきように

ただひとすじの ほんみちにでよ」

という一首です。道を歩む者にとって「三つの心得」をやさしく説いてくださっているのです。

すなわち(1)楽な近道を考えるはならぬ (2)欲深いことを考えてはならぬ (3)高慢になり天狗になつてはならぬと戒めてくださっているのです。

(1)安逸 (2)強欲 (3)増上慢こそ心しなければならぬと、仰せくださっているのです。まさに求道者の、はたまた伝道者の心すべきことではないでしょうか。

いま一首、中山みきさまのお歌を書き添えておきましょう。

いまのみち いかなみちでもなげくなよ
さきのほんみち たのしんでいよ

機関紙『若竹』平成22年3月より

《第八期登壇講師選定進捗状況》(予定)

令和元年9月14日(第二土曜)

「入塾式」

10月19日(第三土曜)

執行草舟氏(決定)

11月9日(第二土曜) ～ 10日(日曜)

宿泊研修 伊勢修養団青少年研修センター

武田数宏氏・寺岡 賢氏・中山 緑氏

12月14日(第二土曜)

上甲 晃氏(常任講師)

1月11日(第二土曜)

木南一志氏(常任講師)

2月15日(第二土曜)

横田南嶺老師(常任講師)

3月14日(第二土曜) ～ 15日(日曜)

宿泊研修(京都・関西セミナーハウス)

未定ですが、当該講師へ折衝中

4月11日(第二土曜)

比田井和孝氏(決定)

5月9日(第二土曜)

津曲 孝氏(依頼中)

6月13日(第二土曜)

喜多川 泰氏(依頼中)

7月11日(第二土曜)

岩崎順子氏(決定)

8月8日(第二土曜)

「卒塾式」

《「入塾説明会」開催》

第七期学塾・中之島も終盤を迎え、第八期の開塾準備を上記の登壇講師選定進捗状況の通り勧めしております。つきましては、みなさま方のご協力を戴きお一人でも多くの新塾生の方々をお迎えできますよう企画致しておりますので、知人・友人・ご家族のみなさまをお誘いくださいますようお願い申し上げます。

○

「入塾説明会」開催要項

・日時 6月8日 午後3時30分～5時

交流会5時15分～

当日の基本カリキュラムは、午後3時終了、その後入塾説明会へと移ります。

また、午後5時15分より交流会を2Fスコラにおいて開催しますので、ご参加をお待ち致して居ります。



第七期入塾説明会(平成30年5月開催)

《お薦め書籍》

『妻のトリセツ』

黒川伊保子 著



出版 講談社＋α新書
頒価 八六四円税込
ISBN-13 978-4-06-33392

妻が怖いという夫が増えている。ひとこと言えば10倍返し。ついでに10年前のことまで蒸し返す。いつも不機嫌で、理由もなく突然怒り出す。人格を否定するような言葉をぶつけてくる。夫は怒りの弾丸に撃たれつづけ、抗う気さえ失ってしまう。夫からすれば甚だ危険で、理不尽な妻の怒りだが、実はこれ、夫とのきずなを求める気持ちの強さゆえなのである(俄には信じ難いが)。本書は、脳科学の立場から女性脳の仕組みを前提に妻の不機嫌や怒りの理由を解説し、夫側からの対策をまとめた、妻の取扱説明書である。「妻が怖い」「妻の顔色ばかりうかがってしまう」「妻から逃げたい」という世の夫たちが、家庭に平穏を取り戻すために必読の一冊でもある。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「真剣」

人間が本当に真剣になると、パツと夜中に目が開いた時とか、あるいは朝、目のさめた瞬間に、大きな問題がパツと分かるものなんです。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

6月カリキュラム

*日時 令和元年6月8日(第二土曜日)

*場所 大阪大学中之島センター 10F

大阪市北区中之島四丁三番五三

*講師 池田整治先生

「本当のことを知れば人生が変わる」

1955年愛媛県生まれ。元陸上自衛隊 陸将補。1980年半ば北朝鮮危機時の警察との勉強会、オウム教上九一色村サティアン強制捜査に自衛官として唯一支援した体験から独自に世の真実を研究。退官後は、日本人の意識向上のための言論活動を展開中。著書に「マインドコントロール」(ビジネス社)、「この国を操り奪う者たち」(ヒカルランド)等

《郊外学習案内》

楠木正成公ゆかりの地

湊川神社を訪ねて

◆日時 6月22日(土曜日)

神戸市中央区多聞通3-1-1



◆集合 午後13時 社務所・「参集殿」前
◆日程 ・社殿・正式参拝
・境内見学

・境内見学
・講演 西原秀樹権宮司さん講話
・「大楠公と湊川神社」
・御節地(史跡・楠木正成殉職地)
・御墓所(史跡・楠木正成墓碑)
・徳川光圀銅像
・宝物館

※詳細は郊外学習の案内を確認ください。

《「大阪掃除に学ぶ会 大阪天満宮お掃除」》

去る4月21日(日)に公益法人日本を美しくする会・大阪掃除に学ぶ会では、毎年恒例となっている大阪天満宮のお掃除を実施致しました。今回が5年目となったお掃除ですが、今年から本殿にも上がらせて頂きお掃除活動を実施。ミヤンマーからの留学生や和歌山、京都からも仲間が駆けつけてくれ、総勢72名が12班に分かれて本殿を含み境内やトイレのお掃除を約1時間半楽しみました。そしてお掃除終了後は本殿参拝も執り行ないご利益を頂いた気分で皆が笑顔いっぱいになっていました。ちなみに集めたゴミは70袋28個にもなりました。今後は100名以上を目指して多くの方にお声掛けをして「大阪の風物詩」になる日を楽しみにしています。次回5月26日は「お初天神(東梅田)」のお掃除です。

午前7時00分開始(9時15分終了)ですので奮ってご参加下さい。(記・下 正晴)

